

A decorative graphic on the left side of the slide, featuring a grid of squares in various shades of blue and purple, arranged in a stepped pattern.

# 2011年3月期 第1四半期 決算概要

2010年8月

# 稲畑産業株式会社

## 2011年3月期 第1四半期 決算総括

### <ポイント>

- ❑ 売上高は、主力の情報電子や合成樹脂事業に加え、化学品事業でも回復基調となり、対前年同期比 26.7%増の1,157億円
- ❑ 営業利益は、売上高の増加に加え、利益率の改善等により、その他(リース業)を除く全セグメントで増益となり、対前年同期比 1,224.0%増の25億円
- ❑ 経常利益は、持分法による投資損失の減少等により、対前年同期比 1,125.0%増の28億円
- ❑ 純利益は、関係会社株式売却益の計上等により、対前年同期比 1,431.8%増の37億円

連結	2010年度 第1四半期	2011年度 第1四半期	前年同期比
売上高	913億円	1,157億円	26.7%
営業利益	1億円	25億円	1,224.0%
経常利益	2億円	28億円	1,125.0%
四半期純利益	2億円	37億円	1,431.8%
1株当り 四半期純利益	3円78銭	57円84銭	

2011年3月期 第1四半期 B/S

①景気回復基調に伴う売上債権及び棚卸資産の増加

②保有する投資有価証券の時価下落

単位：百万円

(資産の部)	10/03	10/06	増減	(負債／純資産の部)	10/03	10/06	増減
現金及び預金	5,463	7,129	1,665	支払手形及び買掛金	84,400	86,539	2,138
受取手形及び売掛金	125,638	127,306	1,667	短期借入金	41,537	40,298	△1,239
棚卸資産	24,593	26,875	2,281	その他流動負債	6,165	8,298	2,132
その他流動資産	7,135	7,863	728	長期借入金	17,226	17,195	△31
有形固定資産	10,787	10,518	△268	その他固定負債	12,170	9,949	△2,221
無形固定資産	7,880	8,281	401	株主資本	56,841	60,256	3,415
投資有価証券	41,898	36,860	△5,037	評価・換算差額等	10,964	7,979	△2,984
その他固定資産	6,567	6,367	△200	その他純資産	658	686	28
資産合計	229,964	231,203	1,238	負債純資産合計	229,964	231,203	1,238

## 2011年3月期 第1四半期 事業セグメント別売上高

### 情報電子 ⇒ 対前年同期比 +23.2% 91億円増

- ✓ 液晶関連は、導光版やフィルム関連などの部材が伸長
- ✓ プリンター・複写機関連は、カラーコピーの需要回復が寄与し、大きく回復
- ✓ 電子材料関連は、マスク blanks を中心に伸長
- ✓ 装置関連は、ハンドラーが伸長したものの全体としては減少

### 化学製品 ⇒ 対前年同期比 +25.2% 34億円増

- ✓ 樹脂原料・添加剤が電子材料市場の復調により大幅に伸長
- ✓ 塗料・インキ・接着剤関連は自動車関連向けが回復し好調
- ✓ 医薬品関連でジェネリック薬品ビジネスが好調に推移
- ✓ 生活環境関連は、健康ドリンク用原料が新規スタートしたものの、殺虫剤業界が低調だったことから、全体としては横ばい

### 合成樹脂 ⇒ 対前年同期比 +42.2% 122億円増

- ✓ 高機能樹脂は、自動車、液晶TV、DVD向けの樹脂販売が伸長
- ✓ 輸出は中国向けを筆頭に東南アジアも引き続き好調
- ✓ 汎用樹脂の販売は、価格上昇傾向の影響で販売量、売上ともに増加
- ✓ フィルム関連は全般的に荷動きが低調で前年並み

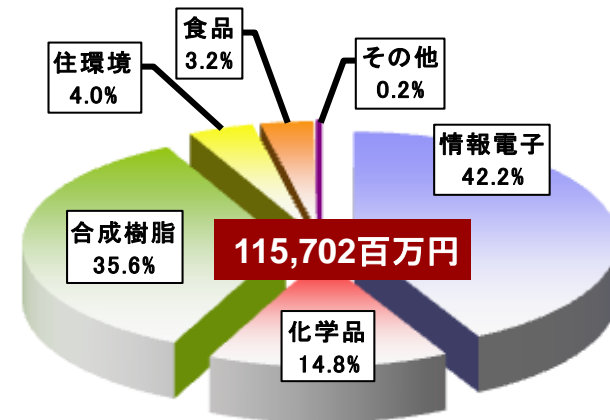
### 住環境 ⇒ 対前年同期比 +7.0% 3億円増

- ✓ 戸建住宅向けなど一部回復の兆しがみえたものの依然厳しい状況
- ✓ フロアー・階段等の新規テーマや樹脂建材の新規販売が順調に推移
- ✓ 木材・建材関連は、木材関連の輸出入が堅調で、特に三国間貿易が好調

### 食品 ⇒ 対前年同期比 △12.1% 5億円減

- ✓ エビ、ウニを主力とする水産物は、価格競争の激化のなか全般的に苦戦
- ✓ 農産物はブルーベリー等の在庫整理が進んだ一方、価格の下落傾向が続き、売上減
- ✓ 国産冷凍野菜は、引き続き量販店向けの販売や商材の開拓などに注力

事業セグメント別売上高



2011年3月期 第1四半期

	売上高(百万円)	前年同期比(%)
情報電子	48,811	23.2
化学製品	17,087	25.2
合成樹脂	41,179	42.2
住環境	4,659	7.0
食品	3,747	△12.1
その他	217	△54.6
合計	115,702	26.7

## 2011年3月期 第1四半期 事業セグメント別営業利益

### 情報電子 ⇒ 対前年同期比 +151.3% 5億円増

- ✓ 液晶テレビ市場の堅調な伸びと半導体市場の回復に支えられ、大きく伸長

### 化学品 ⇒ 対前年同期比 6億円増

- ✓ 機能化学品関連、ライフサイエンス関連ともに総じて好調であったことに加え、ファインケミカルを中心とするフランスでも好調に推移したことから増加

### 合成樹脂 ⇒ 対前年同期比 11億円増

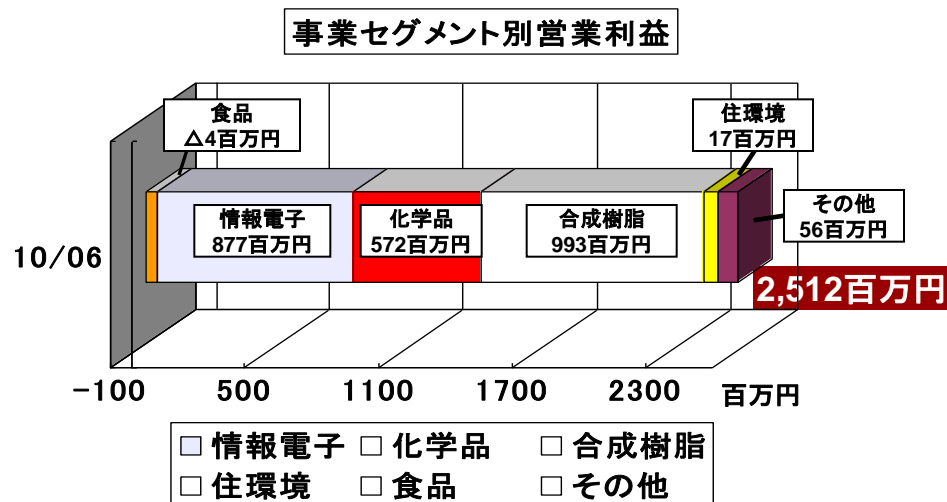
- ✓ 世界不況の影響が残っていた前年同期と比較し、東南アジアを中心に大幅に回復

### 住環境 ⇒ 対前年同期比 2千万円増

- ✓ 全体としては依然厳しい状況の中、テーマを絞り込んだ取組みが実り、対前年同期比微増

### 食品 ⇒ 対前年同期比 3千万円増

- ✓ 天候不順や価格下落の影響で低調に推移したものの、在庫整理が進んだことにより粗利率が改善されたことから、対前年同期比微増



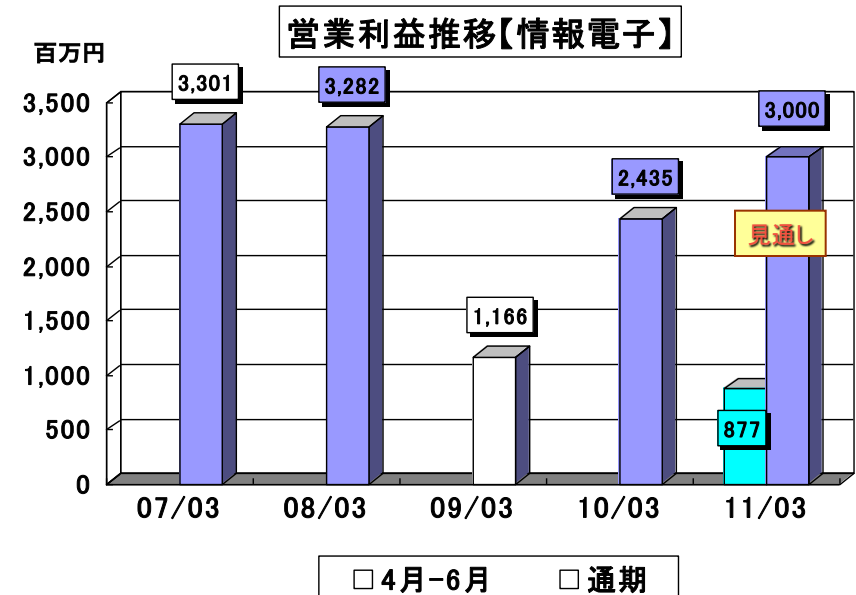
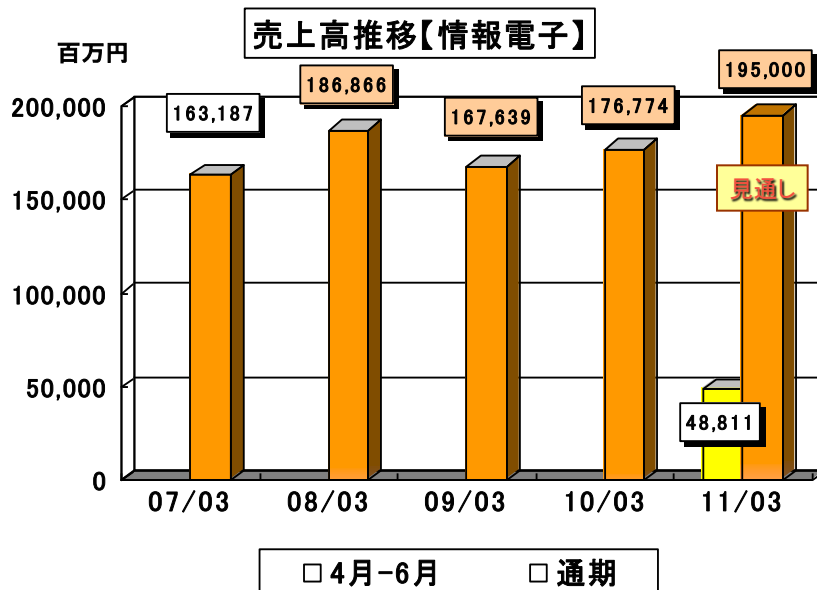
2011年3月期 第1四半期		
	営業利益(百万円)	前年同期比(%)
情報電子	877	151.3
化学品	572	—
合成樹脂	993	—
住環境	17	—
食品	△4	—
その他	56	△18.3
合計	2,512	1,224.0

※前年同期 化学品 △70 合成樹脂 △117  
住環境 △2 食品 △37

## 2011年3月期 第1四半期 主要事業の個別概況(情報電子)

売上高 対前年同期比 +23.2% 91億円増加

- 液晶関連では、LEDを使用した液晶テレビの生産拡大により、特に導光板やフィルム関連などの部材が伸長
- プリンター・複写機関連では、業界の増産傾向に加え、カラーコピーの需要回復等が寄与し大きく回復
- 太陽電池関連は、市場拡大が進む中、新規商材の拡販への積極的な取組み
- 電子材料関連は、海外を中心とした電子機器の需要回復に伴い好調に推移し、特にマスクブランクスを中心に伸長
- 装置関連は、設備投資の回復によりハンドラーが伸長するものの、大型真空装置の検収遅れにより対前年同期比減少

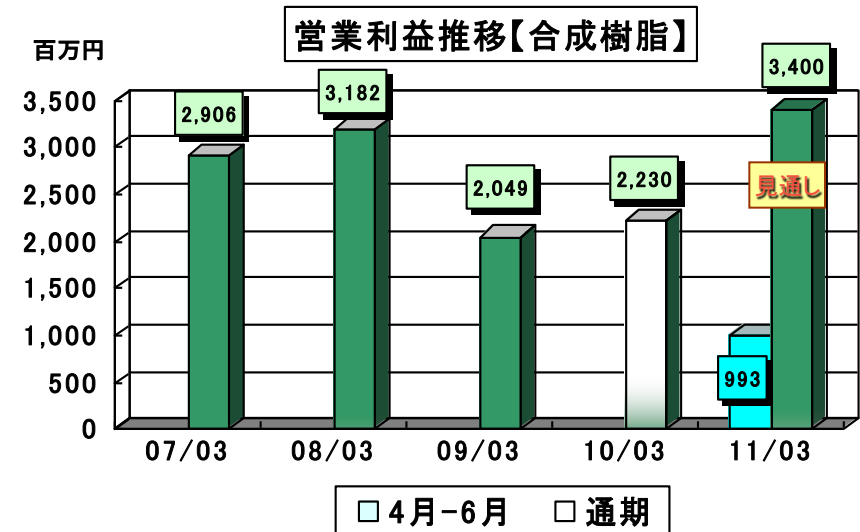
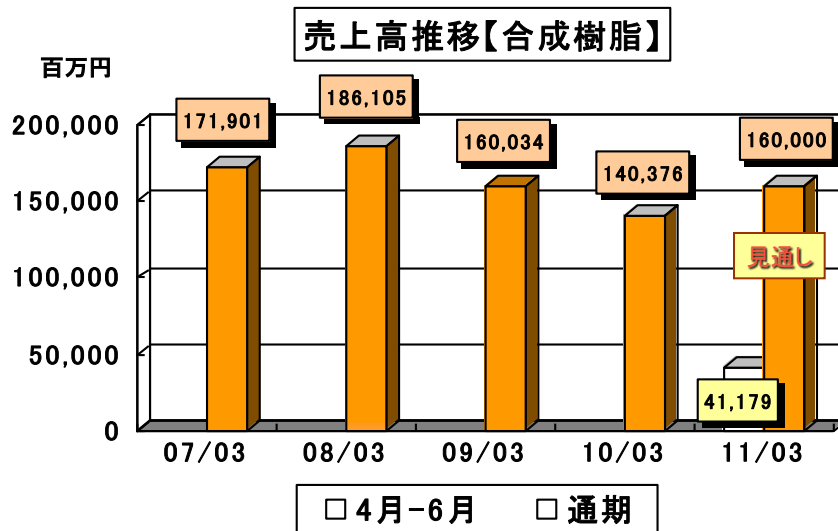


'11年3月期の数字はあくまで予想であり将来にわたり環境などの変化により数字は変動致します

## 2011年3月期 第1四半期 主要事業の個別概況(合成樹脂)

売上高 対前年同期比 +42.2% 122億円増加

- 自動車、液晶テレビ・DVDなどの販売が順調に推移したことから同分野向けの樹脂販売が伸長
- 輸出は中国向けを筆頭に東南アジア向けも引き続き好調だったほか、韓国向けの新規ビジネスもスタート
- 汎用樹脂の販売は、価格上昇傾向の影響で販売量、売上ともに増加
- フィルム関連は、6月より値上げがあったものの全般的に荷動きが低調で前年並み
- ポリエチレン原料はナフサ価格の上昇による先高感から荷動きが活発となり、好調に推移
- 国内グループ会社では、原材料価格が上昇する一方で販売価格は停滞しましたが、収益性の維持に注力



'11年3月期の数字はあくまで予想であり将来にわたり環境などの変化により数字は変動致します

## 2011年3月期 第1四半期 地域別概況

**東南アジア** ⇒ 対前年同期比 +101.0% 89億円増

- ✓ 各国で需要回復が顕著にみられ、大幅に伸長
- ✓ シンガポール、マレーシアでは、コネクタ、半導体、家電向けの樹脂販売が好調
- ✓ タイは、合成樹脂、化学品関係ともに大幅な伸び
- ✓ インドネシアは、自動車・二輪、家電、日用品向け樹脂が伸長

**北東アジア** ⇒ 対前年同期比 +73.3% 91億円増

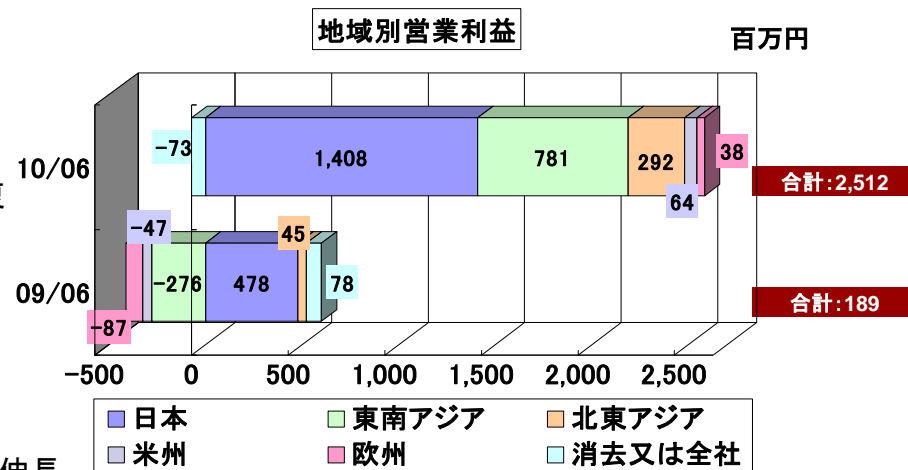
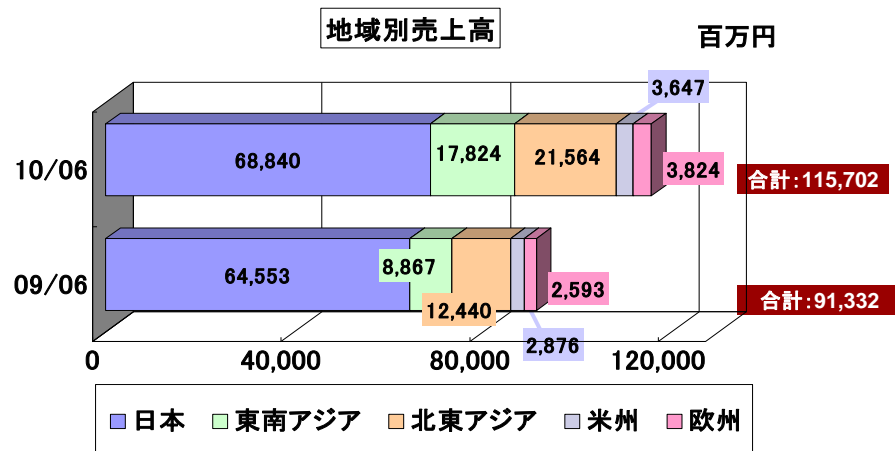
- ✓ 一部製造部門などで苦戦しましたが総じて好調
- ✓ 香港では、情報電子関連が中国国内向けを中心に好調に推移
- ✓ 華東では、合成樹脂、液晶関連、化学品等全般的に大きく伸長
- ✓ 台湾、韓国では、液晶関連を中心に好調

**米州** ⇒ 対前年同期比 +26.8% 7億円増

- ✓ 一部に厳しさが残るものの全体として回復基調
- ✓ 情報電子関連は、業界全体の需要回復に伴い半導体関連で回復
- ✓ 食品関連では、冷凍果実やブルーベリーの販売拡大に努め、売上が増加

**欧州** ⇒ 対前年同期比 +47.5% 12億円増

- ✓ 欧州では、情報電子や化学品関連を中心に総じて回復基調
- ✓ 情報電子関連は、ポーランドでの液晶パネル材料の販売が大きく伸長
- ✓ フランスではファインケミカルを中心に好調に推移





## 2011年3月期 第1四半期 連結子会社概況

- アイケイファーマシー(株)は、全保有株式を譲渡したことにより、第1四半期末で連結の範囲から除外
- 丸石化学品(株)は、株式取得(発行済株式の20%)により、第1四半期首より持分法適用関連会社へ

	連結子会社状況(内訳)		
	国内	海外	合計
連結子会社	12 (△1)	40	52 (△1)
持分法適用関連会社	5 (+1)	3 (△2)	8 (△1)
合計	17	43 (△2)	60 (△2)

(参考) ( )内数値は、対前期末比増減であります。

## 2011年3月期 連結業績予想(通期)

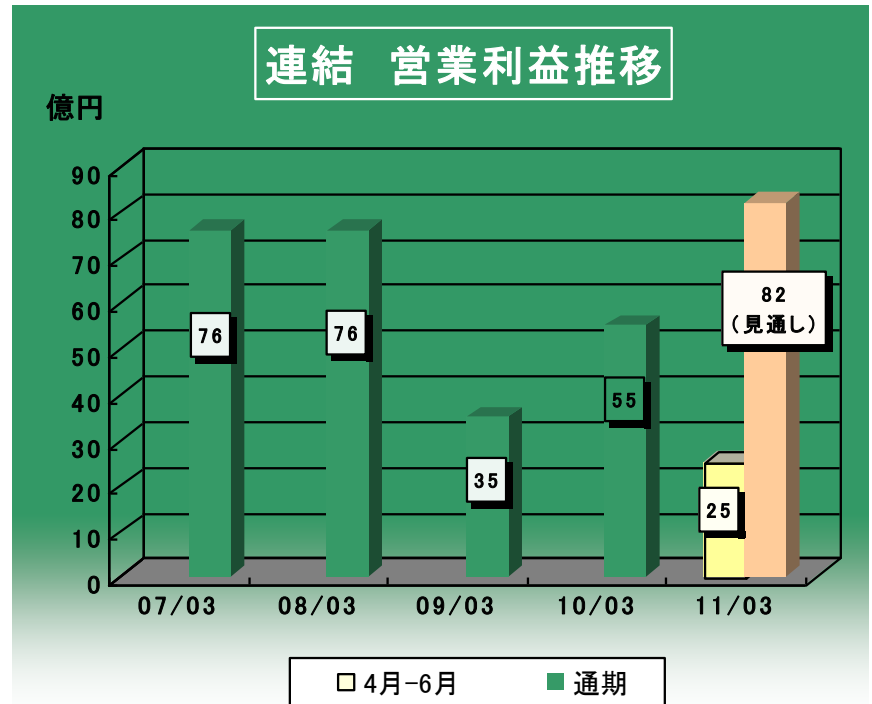
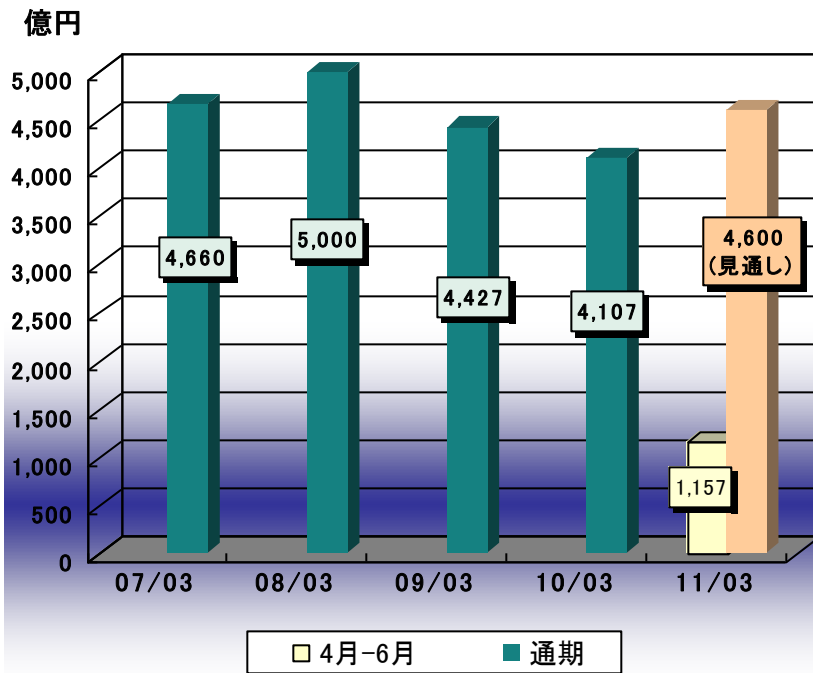
(単位:百万円)

	2011年3月期 第1四半期		2011年3月期 通期見通し (8月10日公表)		2011年3月期 通期見通し (5月12日公表)		増減	増減比
		達成率(%)						
売上高	115,702	25.2%	460,000	430,000	30,000	7.0%		
営業利益	2,512	30.6%	8,200	5,000	3,200	64.0%		
経常利益	2,893	40.2%	7,200	4,800	2,400	50.0%		
当期純利益	3,762	62.7%	6,000	4,200	1,800	42.9%		
1株当たり 当期純利益	57.84	—	92.37	64.55	—	—		

'11年3月期の数字はあくまで予想であり将来にわたり環境などの変化により数字は変動致します

## 売上高と営業利益の推移と見通し(07年3月期～11年3月期)

- 引き続き主力の情報電子、合成樹脂を中心に積極的かつグローバルな事業展開を推進



'11年3月期の数字はあくまで予想であり将来にわたり環境などの変化により数字は変動致します

## 株主への還元

(基本方針)

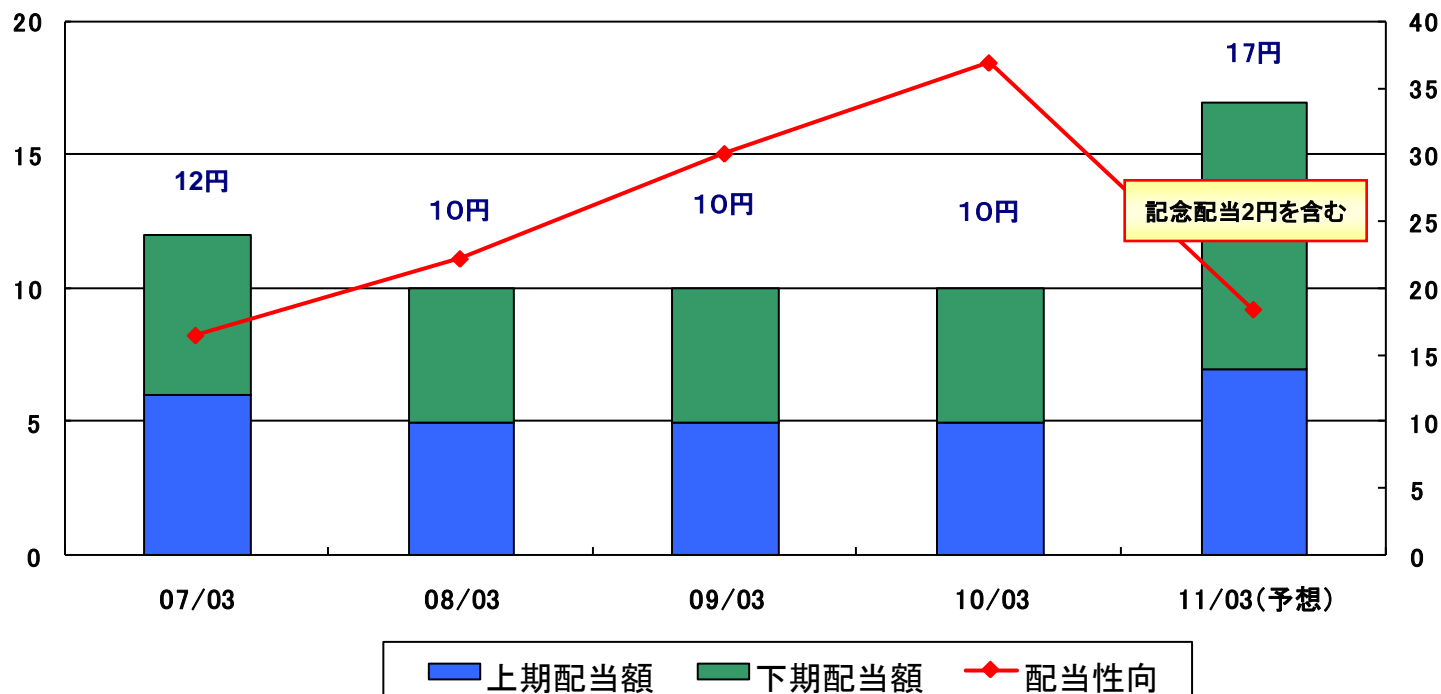
- 事業収益やキャッシュ・フローの状況などを勘案し、連結純利益の**20%~30%**程度を目安とし、今後の企業価値向上に向けての中長期的な投資などを考慮しつつ総合的な判断で決定。
- 利益水準に関わらず、原則として1株あたり最低限**年間10円**の配当金の維持に努める。

(2011年3月期)

- 連結業績における当期純利益が増益となることを予想していることから、普通配当を1株当たり15円(年間)とするとともに、創業120周年記念配当2円を加え、合計17円とする予定です。

配当額(円/株)

配当性向(%)



## 今後の方針

- 有望なアライアンスの締結の促進と自社企画プロジェクトの拡充
- 引き続き国内外の連結経営を強化、収益力の向上、人材の育成に一層注力する。
- シナジー効果の実現を重点に置いた事業の再構築を推進
- 資金の効率化の更なる向上と財務体質の強化
- グループ会社を含む全社員で内部統制の推進に取り組むとともに内部統制システムの充実を図る